

稲作情報 No.11

〔7月12日水稲調査結果、大豆培土、そば圃場準備〕

(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会(農業試験場、福井米戦略課、組合員トータルサポートセンター、JA経済連、主要農作物振興協会)
<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/2018inasaku.html>

- ・移植のコシヒカリは7/10前後に幼穂形成期を迎えている。生育量に応じた穂肥を施用しましょう。
- ・移植のハナエチゼンは出穂期を迎えようとしている。穂揃期の防除を徹底しましょう。
- ・大豆圃場で培土が未実施のところでは、圃場が乾き次第早急に培土を行いましょう。
- ・大豆圃場では暗渠のフタを開け、枕地の培土が水をせき止めている場合、その部分を切り通すなど排水対策を徹底しましょう。
- ・そば播種前に圃場を十分乾燥させるため、麦跡の排水溝の手直しや排水溝の設置を行いましょう。

水稲

【農業試験場水稲気象対策試験のコシヒカリの生育】(7月12日)



圃場の外観

適期田植えコシヒカリ(5/21植え)



稲株の拡大(茎数平均 21.8本/株)



圃場の外観

直播コシヒカリ(5/10播種)



稲株の拡大(茎数416本/㎡)

- ・移植コシヒカリは草丈が長い圃場が散見される。
- ・ハナエチゼンはもうすぐ出穂期を迎える。

【今後の栽培管理】

品種	今後の管理
<p>適期田植え コシヒカリ 【幼穂形成期を過ぎる】</p> <p>直播コシヒカリ</p>	<p>【倒伏軽減対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育状況を確認して穂肥の施用（3ページ参照）や倒伏軽減対策の実施を検討する。（7ページ参照） <p>【穂肥】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分施体系の施用基準は下表のとおり。 ・幼穂10mmを確認して穂肥を施用する。（次ページの穂肥目安板「穂肥くん」参照。） ・2回目は1回目の7日後に窒素成分で2kg/10a施肥する。 ・地力が低いなど葉色を維持するのが難しい所では、2回目の1週間後に3回目の穂肥を施用する。 <p>【水管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間断通水を励行し、根に水分と空気を供給する。土壤水分が不足すると窒素の吸収が抑制され肥効が劣ることがある。 ・入水側だけでなく排水側の乾燥程度も確認しながら水管理を行う。
<p>移植ハナエチゼン 【出穂期直前】</p> <p>移植イクヒカリ</p> <p>移植あきさかり</p>	<p>【幼穂形成期以降の水管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間断通水を励行し、根に水分と空気を供給する。土壤水分が不足すると窒素の吸収が抑制され肥効が劣ることがある。 ・入水側だけでなく排水側の乾燥程度も確認しながら水管理を行う。 ・出穂期を迎えたハナエチゼンは特に圃場が乾かないように注意する。 ・あきさかりは穂肥の時期を迎えている。下表を参考に施用する。 <p>【病害虫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメムシ類の防除準備を行い、適期に作業を行う。大麦跡でそばを作付予定の水田に隣接する場合は特に注意して適期防除に努める。 ・イクヒカリは紋枯病、ニカメイチュウに、あきさかりは紋枯病、白葉枯病に注意する。



切った溝を活用した間断通水

穂肥の目安と施肥基準

品種	穂肥1回目の目安			N施肥量(kg/10a)		
	幼穂長	出穂前	葉色	1回目	2回目	(3回目)
コシヒカリ	10mm	18日	3.5	2	2	(1)
イクヒカリ	2mm	23日	4.0~4.3	2	2	(1)
あきさかり	2mm	23日	4.0	2	2	(1)

(3回目)は低地力、乾田のみ

【コシヒカリを倒さずに高品質と収量を確保する穂肥目安板 「穂肥くん」】

1. 幼穂形成期(幼穂長2mm)に生育状況を調べる

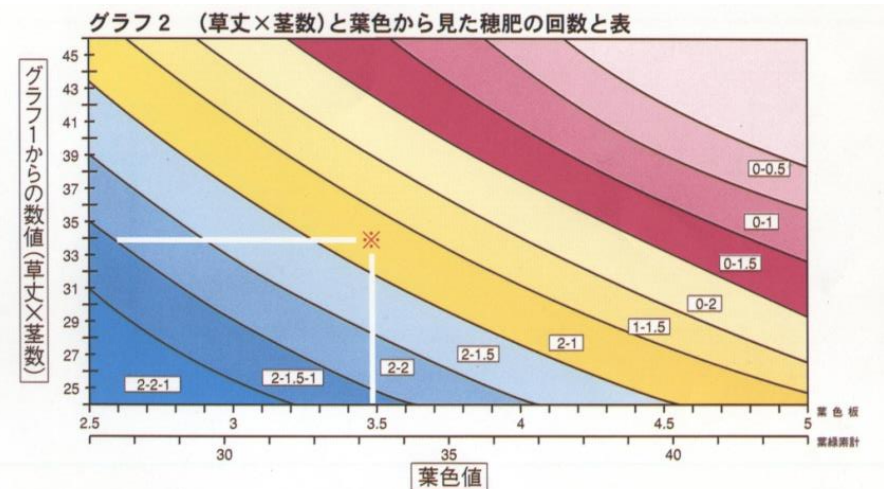
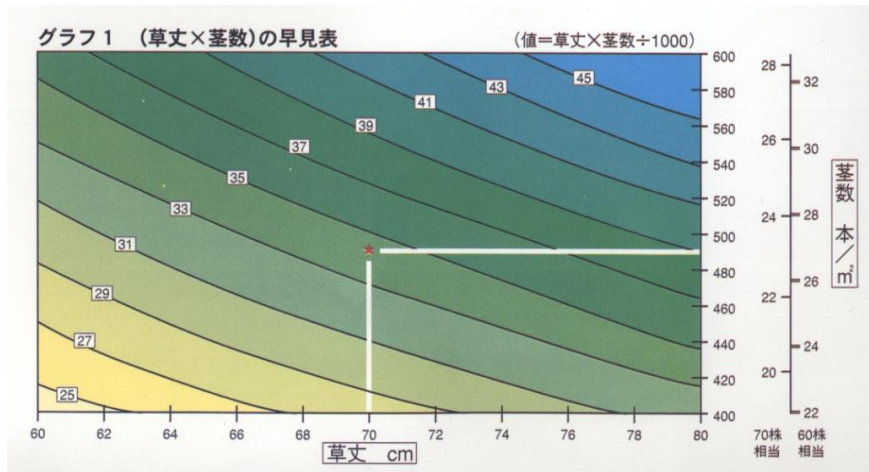
•草丈(cm)、茎数(本/m²)、葉色(葉色板)を平均的な生育の所で計測します。

2. 早見表グラフ1で草丈×茎数の数値を求める

•グラフ1上で草丈と茎数の数値の交差点(★)から草丈×茎数÷1000の値を求めます。
(グラフ1には草丈70cm、茎数490本/m²を例示しています。)

3. 早見表グラフ2でグラフ1と葉色から穂肥の回数と量の目安を求める

•グラフ2上でグラフ1の値(★)と葉色の数値の交差点(※)により穂肥の回数と量の目安を求めます。
(グラフ2にはグラフ1からの値34、葉色3.5を例示しています。)



穂肥管理判定表

葉緑素計 草丈×茎数×葉色値 (×10,000)		葉色板 草丈×茎数×葉色値 (×1,000)		施肥量管理区分(Nkg/10a)			倒伏の 可能性
1回	2回	3回	1回	2回	3回		
~ 7.7	~ 7.7	2.0	2.0	1.0	小		
7.7 ~ 8.8	7.7 ~ 8.9	2.0	1.5	1.0	小		
8.8 ~ 9.8	8.9 ~ 10.2	2.0	2.0	—	小		
9.8 ~ 10.9	10.2 ~ 11.5	2.0	1.5	—	小		
10.9 ~ 12.1	11.5 ~ 12.8	2.0	1.0	—	中		
12.1 ~ 13.2	12.8 ~ 14.2	1.0	1.5	—	中		
13.2 ~ 14.6	14.2 ~ 15.8	—	2.0	—	中		
14.6 ~ 16.3	15.8 ~ 17.7	—	1.5	—	大		
16.3 ~ 17.8	17.7 ~ 19.6	—	1.0	—	大		
17.8 ~ 19.0	19.6 ~ 20.9	—	0.5	—	大		

※上位第3葉が43cm以上の場合は倒伏軽減剤の利用を考える

- 地元の農林総合事務所やJAと相談して地域の栽培環境等を勘案して判断する。
- 幼穂形成期頃の「草丈(cm)×茎数(本/m²)×葉色(葉色板)」値16万以上、直播で12万以上)場合は倒伏軽減対策を実施する。

【病害虫等の発生状況と対策】

病害虫	発生状況と対策																																																																																																			
<p>葉いもち</p>	<p>【発生状況】 BLASTAM（ブラスタム）によるいもち病の感染好適条件出現状況。 7/8に勝山と大野で感染好適条件が出現 (●感染好適条件日 ○準好適条件日)</p> <p>【対策】 ・ 予防粒剤の苗箱施薬や本田散布を行っていない圃場、常発地、適期田植えや直播栽培、生育が旺盛で葉色が濃く葉が垂れている圃場で特に注意して観察する。 ・ 圃場を見回って、発病を見つけたら治療効果のある薬剤を散布し蔓延を防ぐ。 ・ ケイ酸質資材は稲体を硬くしていもち病菌の侵入を抑制する効果があるといわれている。最高分げつ期頃に施用する。</p> <table border="1" data-bbox="1562 208 1908 532"> <thead> <tr> <th></th> <th>7/04</th> <th>7/05</th> <th>7/06</th> <th>7/07</th> <th>7/08</th> <th>7/09</th> <th>7/10</th> <th>7/11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三国</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>春江</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>越廼</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>福井</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>勝山</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>大野</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>今庄</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>敦賀</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>美浜</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>小浜</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		7/04	7/05	7/06	7/07	7/08	7/09	7/10	7/11	三国	-	-	-	-	-	-	-	-	春江	-	-	-	-	-	-	-	-	越廼	-	○	-	-	-	-	-	-	福井	-	-	-	-	-	-	-	-	勝山	-	-	-	-	●	-	-	-	大野	-	○	-	-	●	-	-	-	今庄	-	-	-	-	-	-	-	-	敦賀	-	-	-	-	-	-	-	-	美浜	-	-	-	-	-	-	-	-	小浜	-	-	-	-	-	-	-	-
	7/04	7/05	7/06	7/07	7/08	7/09	7/10	7/11																																																																																												
三国	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																												
春江	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																												
越廼	-	○	-	-	-	-	-	-																																																																																												
福井	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																												
勝山	-	-	-	-	●	-	-	-																																																																																												
大野	-	○	-	-	●	-	-	-																																																																																												
今庄	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																												
敦賀	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																												
美浜	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																												
小浜	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																												
<p>紋枯病</p>	<p>【対策】 ・ 垂直進展初期は平年並み。早生で7月第3半旬、中晩生で7月5半旬。 ・ 8月上旬までに出穂する圃場では穂ばらみ期～出穂直前、8月中旬以降に出穂する圃場では7月下旬に薬剤を散布する。 ・ 穂ばらみ期の発生株率が早生では10%以上、中生では20%以上ならば防除が必要である。 ・ 紋枯病が発生した圃場では、菌核が残っており次作の伝染源となる。前年に発生があった圃場では、必ず防除を行う。 ・ 早生、短稈品種では被害が大きくなりやすいので注意する。</p>																																																																																																			
<p>カメムシ類</p>	<p>【発生状況】 ・ 大麦跡のそば作付け予定地の雑草にも多い。雑草管理を徹底する。</p> <p>【対策】 ・ 粉剤・液剤の防除は穂揃期～乳熟期（出穂3～5日後）と糊熟初期（出穂10～14日後）の2回行う。 ・ 平成30年病害虫防除だよりNo. 319 (http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo30_d/fil/boujyo319.pdf) 参照。</p>																																																																																																			
<p>その他</p>	<p>【ニカメイチュウ】 ・ 発生量は平年より少ない。第1世代成虫発生最盛期は平年よりやや早い7月4半旬頃 ・ 発生量が多いところでは粒剤を用いる場合は7月5半旬、粉剤・液剤を用いる場合は7月6半旬頃までに防除を行う。 ・ 前年発生が多かった圃場、窒素施用量が多く葉色が濃い圃場、直播等熟期が遅い圃場、もち品種等で注意する。</p> <p>【イネツトムシ】 ・ 第2世代幼虫加害最盛期は7月4半旬、被害程度は少発、局中発、発生量は平年、前年より多いと予測されている。</p> <p>【イネアオムシ】 ・ 第2世代幼虫加害初期は7月4半旬頃、被害程度は少発、局中発、発生量は平年より少なく、前年よりやや多い。 ・ 過繁茂のイネや山間地など風通しの悪い地域で被害が大きくなるので注意が必要である。</p>																																																																																																			

【コシヒカリの倒伏軽減対策】

1. 幼穂形成期(幼穂長2mm)に生育状況を調べる

- 草丈(cm)、莖数(本/m²)、葉色(葉色板)を平均的な生育の所で計測します。
- 草丈×莖数×葉色の値を算出します。

2. 基準値と比較する

- 草丈×莖数×葉色の基準値
移植コシヒカリ 160,000
直播コシヒカリ 120,000(移植より根が浅い、莖1本当たりの乾物重が小さいため倒伏しやすい)

- 基準値を超える場合は、倒伏程度が大きくなると予測されるので、倒伏軽減剤を使用します。

ロミカ粒剤	出穂25～10日前	2～3kg/10a	湛水散布、7日間は落水やかけ流しをしない、黒ボク土壌では効果が劣る場合がある
スマレクト粒剤	出穂15～10日前	2～3kg/10a	湛水散布、7日間は落水やかけ流しをしない(砂壤土では2kg/10a)
ビビフル粉剤DL	出穂10～5日前	3～4kg/10a	散布

【高温時の水不足対策】

1 漏水の有無の確認

- 高温、多照が続き、田面や稲体からの蒸発や蒸散作用が大きいため、1日1回水回りをして、畦畔や水尻部からの漏水がないよう止水確認を行う。

2 計画配水と水源の確保

- 水不足が懸念される場合には、地域や集落で用水系統や団地毎に入水時間を申し合わせるなど、計画的に用水の供給を行う。
- 水不足が深刻なところでは排水路からのポンプアップを行う。湛水深は極力浅水とし、節水栽培に努める。

3 塩害対策

- 九頭竜川の下流域や北潟湖周辺等で、用水に塩水が混入する恐れのある地帯では常に用水の塩分濃度をチェックし、塩分濃度が700ppm以上となった場合には、集水口を水面近くに移動する。塩分の許容限界はECメーターで1.0mS/cm以下で、通常塩素イオンが濃度500ppm以下の水を使用していれば障害の発生は少ない。

【カメムシ防除による斑点米防止】

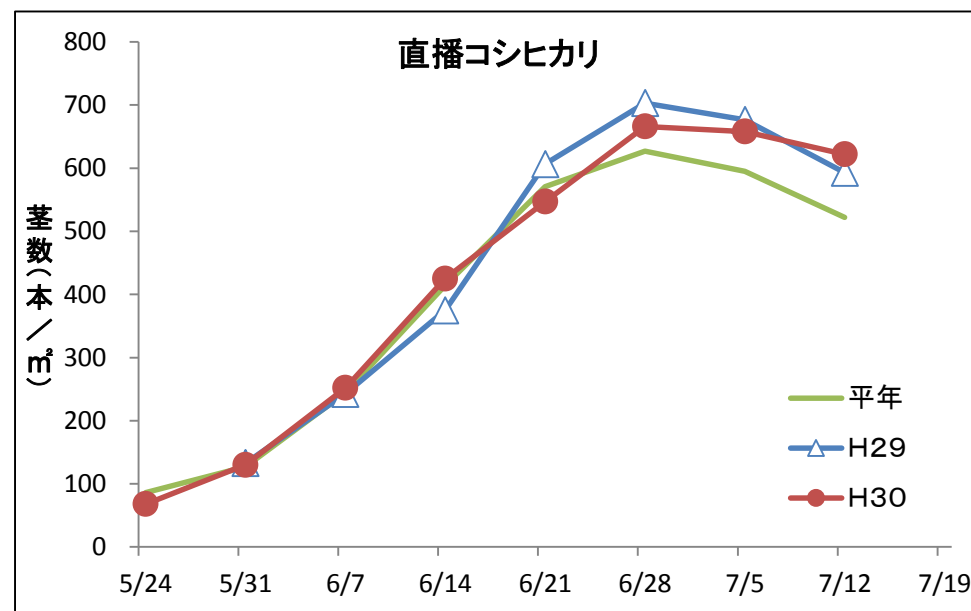
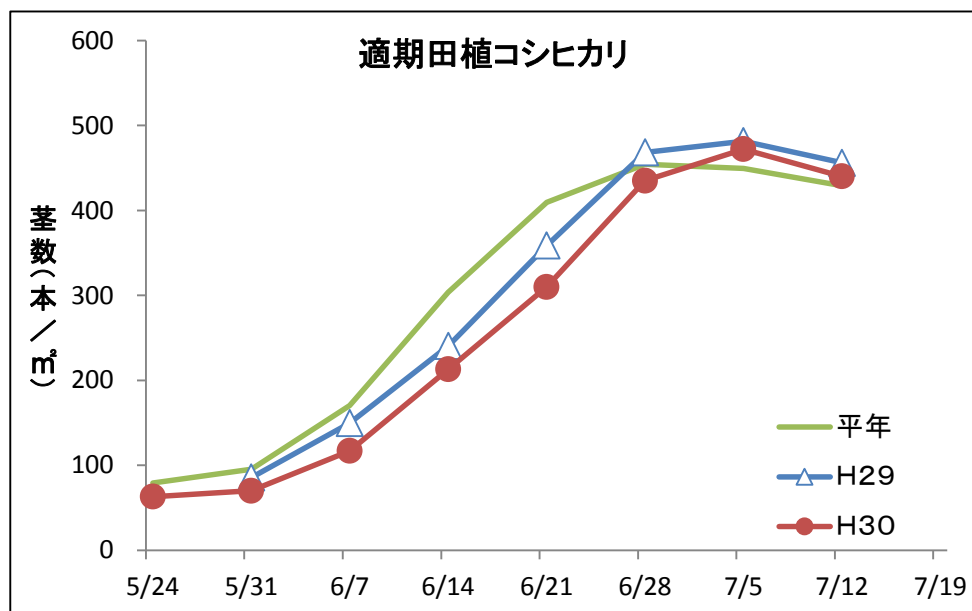
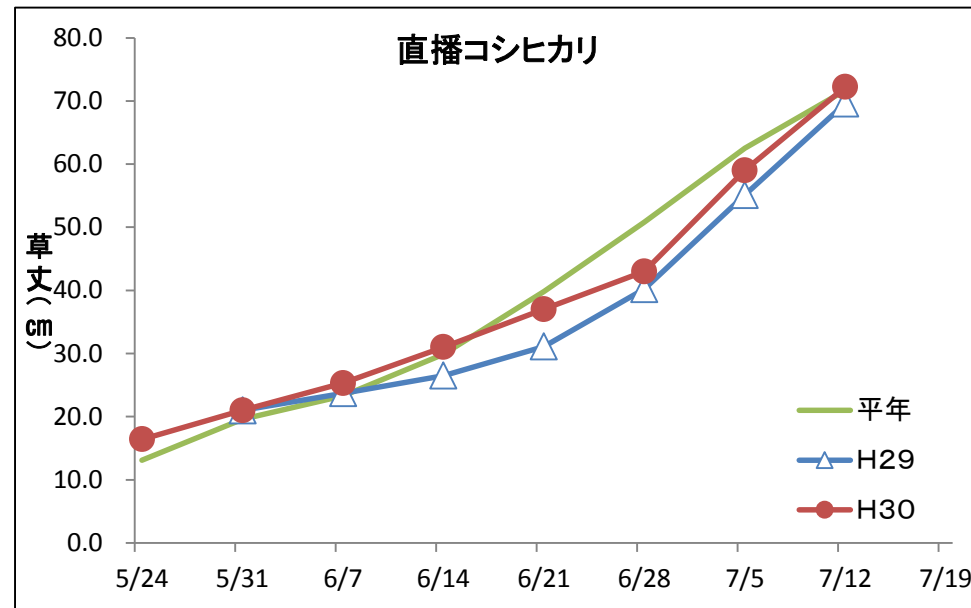
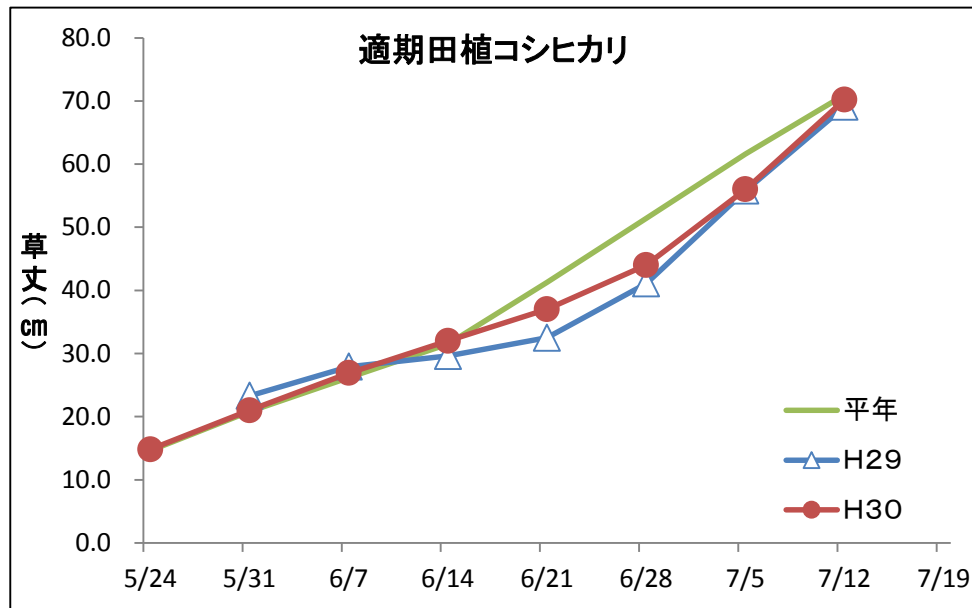
・穂揃期、糊熟初期に防除し、斑点米の発生を防ぎましょう。

品種別の防除時期の目安

品種	出穂期	防除時期の目安	
		1回目 穂揃期	2回目 糊熟初期
ハナエチゼン (5月2日植)	7月19日	7月24日	8月1日
コシヒカリ (5月20日植)	8月4日	8月9日	8月18日
あきさかり (5月15日植)	8月9日	8月14日	8月23日

- 成虫の本田侵入最盛は7月4半旬(ハナエチゼンの穂揃期)。
- 畦畔等の除草を終えていない所は早急に草刈りを実施する。ただし、出穂期を迎えてからはカメムシ類を水田内に追い込むので行わない。
- 毎年、斑点米の発生が多い地域や牧草地・大麦跡雑草地などのカメムシ発生源が隣接する圃場では、必ず3回防除を実施する。
- 農薬散布時期は、品種ごとの生育時期に合わせて実施する。
- 農薬使用に当たっては、使用方法を厳守するとともに、周辺居住者等への事前周知および飛散防止に努める。

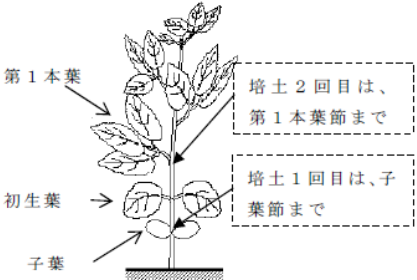
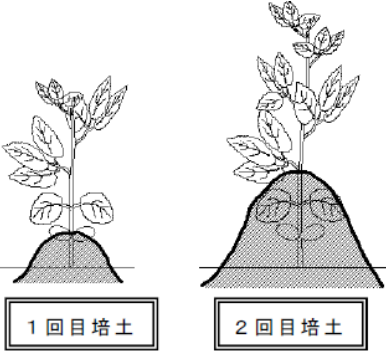


【コシヒカリ生育経過】



【生育調査結果】

調査日：平成30年7月12日

		ハナエチゼン			コシヒカリ								あきさかり					
		農試	坂井 農場	現地	農試		坂井農場		現地・慣行		現地・特別栽培		農試	坂井 農場	現地			
		移植 5/1	移植 5/1	移植 4/27	移植 5/21	直播 5/10	移植 5/15	直播 5/7	移植 5/17	直播 5/2	移植 5/16	直播 5/6	移植 5/1	移植 5/15	移植 5/10			
草丈 (cm)	本年	調査終了			68.6	74.4	69.7	68.5	70.2	72.2	66.3	68.6	66.0	65.3	69.3			
	平年				69.1	71.7	72.1	78.0	71.0	71.7	—	74.1	69.0	72.0	66.3			
茎数 (本/株) (本/m)	本年				453	416	453	528	440	622	366	669	564	495	481			
	平年				478	574	415	549	429	522	—	511	616	492	482			
葉齢 (枚)	本年				11.0	10.5	11.4	11.3	10.7	10.8	10.2	9.9	12.6	11.2	11.5			
	平年				11.1	10.6	11.2	11.1	10.9	10.6	—	10.6	12.2	12.0	11.8			
葉色 (葉色 板)	本年				4.2	4.2	3.6	3.6	4.2	4.0	4.0	4.4	4.6	4.3	4.5			
	平年				3.9	4.0	3.9	3.8	3.8	4.1	—	3.8	4.4	4.3	4.8			
幼穂 形成期	本年				6/27	6/27	6/25	7/12	—	7/8	—	—	—	—	—	7/9	—	—
	平年				6/27	6/27	6/28	7/12	7/16	7/10	7/16	7/12	7/15	7/15	7/12	7/9	7/14	7/11
出穂期	本年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	平年	7/19	7/18	7/20	8/1	8/7	8/2	8/7	8/2	8/5	8/7	8/3	8/2	8/6	8/2			

作業	作業の注意点
培土・中耕	<p>【培土・中耕の効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①畝立てをして排水性を向上する。株元が窪んでいると水が溜まるため山形に培土する。 ②培土後地中に入った茎から新根（不定根）が出る。この根の発生時期は播種後20～35日にあたる6月下旬から7月中旬であり、7月中旬までに培土を終える。 土塊が大きいと根が発生しないので雨上がりなど土壌水分が高い時は作業しない。 ③播種後の除草剤の効果は約1か月でなくなるので中耕で除草する。 ④通気性がよく湿った土が株元を覆うことで根の伸長と根粒の着床を促す。 ⑤株元が支持されて倒伏を軽減する。 <p>【培土・中耕の時期と程度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回実施を基本とする。大豆の生育に対して作業時期が遅れないように留意する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div> <p>・圃場周りの枕地部分で培土を行うと額縁明渠へのスムーズな排水を妨げる。培土後に枕地の畝を数箇所切って排水性を高める。高温乾燥期の畝間かん水の実施にも役立つ。</p> <p>・排水不良や播種期が遅く生育量が小さい場合は、培土時に窒素成分で5kg/10a程度の追肥をする。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div>

作 業	作業の注意点			
除草	【生育期に使用できる除草剤】			
	使用時期		除草剤名	10a当たり使用量
	雑草生育期 茎葉処理イネ科雑草3～5葉期	収穫60日前まで	ワンサイドP乳剤	雑草茎葉散布 75～100ml
	雑草生育期 イネ科雑草3～8葉期	収穫30日前まで	ナブ乳剤	雑草茎葉散布 150～200ml(イネ科雑草3～5葉期)
				雑草茎葉散布 200ml(イネ科雑草6～8葉期)
	雑草生育期 イネ科雑草3～10葉期	収穫30日前まで	ポルトフロアブル	雑草茎葉散布 200～300ml
	雑草生育初期～6葉期(イネ科を除く) (大豆2葉期～開花前まで)	収穫45日前まで	大豆バサグラン液剤	雑草茎葉散布 100～150ml
	大豆本葉3葉期以降雑草生育期 雑草生育期(雑草の草丈15cm以下)	収穫30日前まで	ロロックス	雑草茎葉兼土壌散布 (畝間・株間処理) 100～200g
	雑草生育期 播種後出芽前、畝間処理	収穫28日前まで	バスタ液剤	雑草茎葉散布 300～500ml
	雑草生育期 畝間処理	収穫28日前まで	ザクサ液剤	雑草茎葉散布 300～500ml
雑草生育期 畝間処理(雑草の草丈30cm以下)	収穫3日前まで	プリグロックスL	雑草茎葉散布 600～1000ml	
雑草生育期 落葉終期～	収穫14日前まで	ラウンドアップマックス ロード	雑草茎葉散布 500ml	
<ul style="list-style-type: none"> ・大豆バサグラン液剤は、あやこがねに薬害が強く出ることがあるため使用を避ける。 ・株間処理剤(雑草茎葉および土壌散布)として、ロロックスが使用可能。 ・狭畦密植無培土栽培は大豆が条間を早く覆って抑草するのがねらいたが、排水不良等により大豆の初期生育が不足すると雑草が多発するので、除草剤を適切に使用する。 ・除草剤の使用にあたっては、使用基準(使用時期、使用量、成分ごとの使用回数、散布方法、水管理方法等)を必ず守る。 				

作業	作業の注意点														
病害虫防除	<p data-bbox="395 225 1742 254">・ 紫斑病と組み合わせて適期防除に努める。朝夕風のない時間帯に、薬剤が莢に充分付着するよう散布する。</p> <table border="1" data-bbox="416 265 1970 848"> <thead> <tr> <th data-bbox="416 265 779 311">病害虫</th> <th data-bbox="779 265 1970 311">防除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="416 311 779 358">ウコンノメイガ</td> <td data-bbox="779 311 1970 358">発生量は昨年並み。葉が巻き始める7月下旬～8月はじめに防除する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 358 779 444">葉焼け病</td> <td data-bbox="779 358 1970 444">近年、発生量が多くなってきているので、7月下旬に防除する。防除だよりNo. 318 (http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo30_d/fil/boujyo318.pdf)を参照。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 444 779 496">紫斑病</td> <td data-bbox="779 444 1970 496">種子消毒や自家種を使用している場合は防除する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 496 779 549">シロイチモジマダラメイガ</td> <td data-bbox="779 496 1970 549">幼虫が莢に食入する前、大豆若莢期から莢伸長期の8月中旬以降。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 549 779 682">フタスジヒメハムシ</td> <td data-bbox="779 549 1970 682">第2世代成虫の発生盛期である8月下旬が防除適期。 〔要防除水準は、8月下旬(第2世代成虫発生盛期)に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合には直ちに防除する。〕</td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 682 779 848">カメムシ類</td> <td data-bbox="779 682 1970 848">圃場への侵入が多くなる子実肥大期(8月下旬)以降、8月下旬と9月10日頃の2回防除すると効果が高い。 〔要防除水準は、8月下旬(圃場侵入期)は100個体当たり0.3頭、9月中旬(発生盛期)は100個体当たり4.0頭以上の場合には防除する。〕</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="395 858 1100 886">・ 薬剤は最寄りのJAで取扱いの薬剤を御確認ください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div data-bbox="505 929 940 1296">  <p data-bbox="561 1308 884 1343">葉焼け病で変色した葉</p> </div> <div data-bbox="1189 929 1659 1282">  <p data-bbox="1265 1308 1632 1343">ウコンノメイガの被害葉</p> </div> </div>	病害虫	防除	ウコンノメイガ	発生量は昨年並み。葉が巻き始める7月下旬～8月はじめに防除する	葉焼け病	近年、発生量が多くなってきているので、7月下旬に防除する。防除だよりNo. 318 (http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo30_d/fil/boujyo318.pdf)を参照。	紫斑病	種子消毒や自家種を使用している場合は防除する	シロイチモジマダラメイガ	幼虫が莢に食入する前、大豆若莢期から莢伸長期の8月中旬以降。	フタスジヒメハムシ	第2世代成虫の発生盛期である8月下旬が防除適期。 〔要防除水準は、8月下旬(第2世代成虫発生盛期)に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合には直ちに防除する。〕	カメムシ類	圃場への侵入が多くなる子実肥大期(8月下旬)以降、8月下旬と9月10日頃の2回防除すると効果が高い。 〔要防除水準は、8月下旬(圃場侵入期)は100個体当たり0.3頭、9月中旬(発生盛期)は100個体当たり4.0頭以上の場合には防除する。〕
病害虫	防除														
ウコンノメイガ	発生量は昨年並み。葉が巻き始める7月下旬～8月はじめに防除する														
葉焼け病	近年、発生量が多くなってきているので、7月下旬に防除する。防除だよりNo. 318 (http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo30_d/fil/boujyo318.pdf)を参照。														
紫斑病	種子消毒や自家種を使用している場合は防除する														
シロイチモジマダラメイガ	幼虫が莢に食入する前、大豆若莢期から莢伸長期の8月中旬以降。														
フタスジヒメハムシ	第2世代成虫の発生盛期である8月下旬が防除適期。 〔要防除水準は、8月下旬(第2世代成虫発生盛期)に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合には直ちに防除する。〕														
カメムシ類	圃場への侵入が多くなる子実肥大期(8月下旬)以降、8月下旬と9月10日頃の2回防除すると効果が高い。 〔要防除水準は、8月下旬(圃場侵入期)は100個体当たり0.3頭、9月中旬(発生盛期)は100個体当たり4.0頭以上の場合には防除する。〕														

そば

作業	作業の注意点
圃場準備	<ul style="list-style-type: none">・できるだけ早めに排水溝を整備し、梅雨明け後の好天下で徹底した乾燥を図る。排水口は排水溝の底面より低くする。・麦跡は溝の掘り直しだけ実施し、播種まで耕うんしない。耕うんすると降雨の水が保たれ、排水性が劣る。

ソバ小畦立て播種による湿害回避と収量改善

1. はじめに

水田転換期作物は、播種後の強雨による湿害で減収することがたびたびあります。今回は農業試験場を中心に開発した小畦立て播種技術による湿害回避と収量改善について紹介します。

2. 装置の概要、特徴と効果

- 1) 種子を地下に埋めず、地表面に並べおいて種子の両側の土を切り盛りして排水溝と畦を同時成形します(図1)。



小畦立て播種 平畦播種
図1 小畦立て播種と平畦播種の比較



図2 小畦立て播種装置装置図。ベース RXG-GSF(アグリテクノ矢崎)
双輪の播種機の後土坂をはずし、後E輪を小畦立て装置に換装する。

- 2) 既存の普及型播種機に簡単に装着・使用できます(図2)。

覆土輪をはずし、鎮圧輪を小畦立て装置に換装します。ディスクオープナの下端が作土に1~2cm 食込むように播種機の高さを調整してください。小畦立て装置は隣接する播種ユニットが前後します。後ろのディスクを、前のディスクより3cm 低く設定してください。播種後に乾燥が続くときは、大豆ほど水位をあげる必要はありませんが、畦間かん水を実施します。

- 3) 小畦立て播種によって湿害を回避できます(図3および4)。



小畦立て 平畦
図3 ソバ小畦立て播種による湿害発生状況の比較

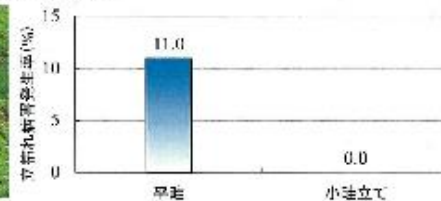


図4 小畦立て播種による立枯れを湿害発生低減
(旭井市・地点、大野市・地点)

- 4) 小畦立て播種で収量が向上します。(図5)

3. 使用上の注意

前作残渣や刈株が大きいと、対向ディスク間にたまる刈り株や雑草などが、小畦成形を邪魔するので、播種作業前にモアや荒耕しなどで作業下地を作ります。

4. 装置とコストについて

スライドロール式耐久型施肥播種機 RXG シリーズ(アグリテクノ矢崎)のオプション部品です。播種前の排水対策は従来通り実施します。装置1基当たりの単価は約

34,000円(税抜)です。詳しくは お近くの県、農機販売店などにお問い合わせください。

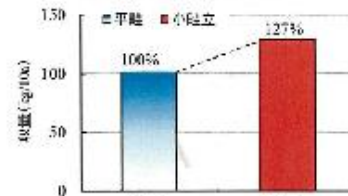
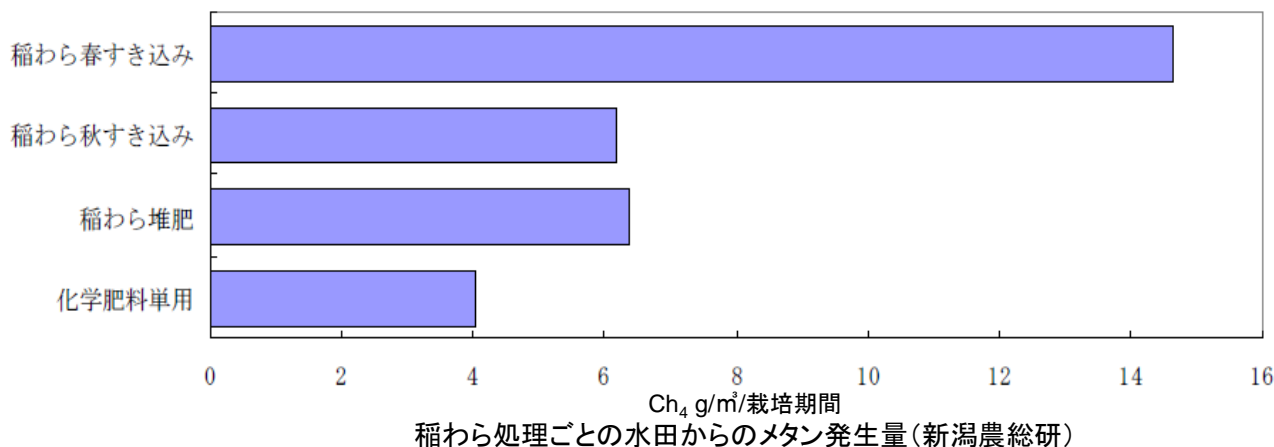


図5 ソバ小畦立て播種による収量の結果(2015および2016年平均)

初期生育が悪かった圃場でガスが発生していませんか

- 苗質はよかった、施肥量は計算どおり、なのに初期生育が悪かった。そのような圃場の中を歩いた時ガスがブクブクと出てきませんか。
- わらを遅くすき込むと、稲わらが十分腐熟しないため、田植え後、わら分解に施肥窒素が使われ、稲の初期生育が悪くなります。
- また、有機酸や根腐れの要因となる硫化水素やメタンガスも発生しやすくなり、適正な分けつの確保が困難となり、後できとなり節間が伸びやすく倒伏の原因にもなります。
- 稲わらは収穫後早めにすき込んでわらの腐熟を促進させましょう。



稲わらを秋にすき込むことにより、分けつ期の土壌の異常還元が抑えられ、地球温暖化ガスであるメタンガスや根腐れの原因である硫化水素などの発生を抑制する。

秋の田起こしでおいしい米づくりを！
～早めに稲わらをすき込んでわらの腐熟を促進しましょう～

ふくいアグリネット「稲作情報システム」のご案内

ふくいアグリネット <http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/>
 稲作情報システム http://www.agri-et.pref.fukui.lg.jp/gizyutsu/ine_sys/index.html

①ふくいアグリネット・トップ→ 農業技術情報 →稲作情報システム

②年度、情報(生育状況、収量・品質)、地域、地点を選択

NO	地名名	品種	稲作方法	地域区分
4	高山一級産	ハナエチゼン	移植	高丹中
7	あわのこぼれ	ハナエチゼン	移植	低丹平
44	飯井農産一ノ木	ハナエチゼン	移植	飯丹平
65	飯井農産二ノ木(産別)	コヒナリ	移植	飯丹平
56	飯井一級産	ハナエチゼン	移植	高丹平
112	飯井二ノ木(産別)	コヒナリ	露作	飯丹平
58	飯井農産一級産	コヒナリ	露作	飯丹平
113	飯井農産二級産	コヒナリ	露作	飯丹平
70	飯井二ノ木(産別)	コヒナリ	露作	高丹中
71	飯井二ノ木(産別)	コヒナリ	露作	高丹中
72	飯井二ノ木(産別)	コヒナリ	露作	高丹中
73	飯井二ノ木(産別)	コヒナリ	露作	高丹中
74	飯井二ノ木(産別)	コヒナリ	露作	飯丹平
75	飯井二ノ木(産別)	コヒナリ	露作	飯丹平
76	飯井二ノ木(産別)	コヒナリ	露作	飯丹平
83	飯井二ノ木	あまのり	露作	高丹中
115	飯井一級産	ハナエチゼン	移植	飯丹平

③生育状況、収量、品質のグラフを表示

福井県農業情報ポータルサイト「ふくいアグリネット」において、県内各地(約40地点)の水稻の生育状況や収量・品質の調査データを「稲作情報システム」で掲載しています。現在の生育状況はもちろん、過去のデータ(生育、収量・品質)を調べることができます。ぜひご利用ください。

【天気予報】

7月12日15時 福井県の週間天気予報

日付	13 金	14 土	15 日	16 月	17 火	18 水	19 木
福井県	曇のち時々晴	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇
降水確率(%)	10/0/10/10	10	10	20	20	20	30
信頼度	/	/	A	A	A	A	B
福井							
最高(°C)	31	32 (31~36)	34 (32~37)	34 (32~37)	33 (30~36)	34 (29~36)	34 (30~37)
最低(°C)	23	24 (22~25)	23 (22~25)	23 (21~25)	23 (21~25)	24 (22~26)	24 (22~26)

【メールマガジン e農メール】

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html



気象庁 気象統計情報(各種観測データ)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

携帯電話ではQRコードで簡単アクセス